

令和2年度 学校評価の結果（考察）

12月に実施した学校評価アンケート（保護者・児童）の結果を以下のようにまとめ、考察しましたのでご覧ください。結果は、保護者と児童の比較を中心にグラフで表しています。

1) 回答者（人数）：保護者（106名）児童（108名）

2) 質問項目 グラフの上記に記載

3) 評価（4段階評価：「A」「B」「C」「D」）

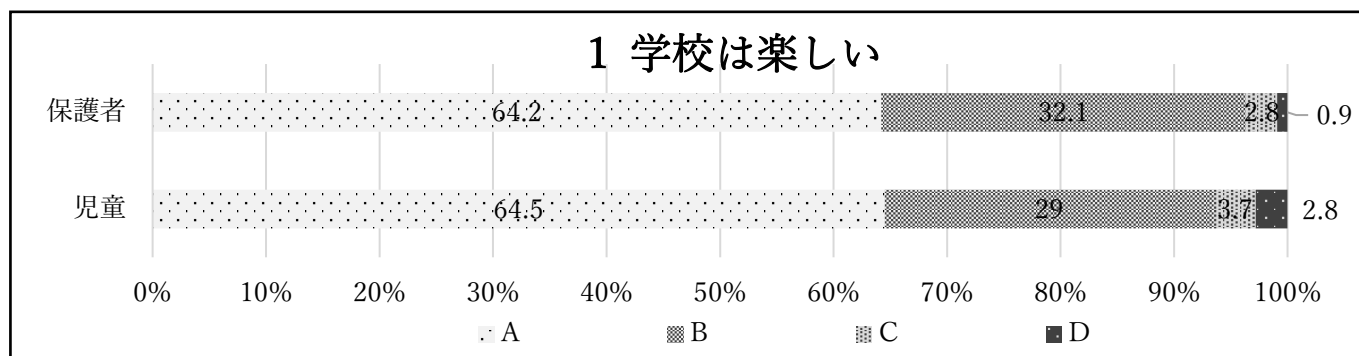
・積極的 肯定的な評価＝「A」 そう思う・あてはまる、「B」 だいたいそう思う・だいたいあてはまる

・消極的 否定的な評価＝「C」 あまりそう思わない・あまりあてはまらない、「D」 そう思わない・あてはまらない

①「学校は楽しい」

児童「学校は楽しいですか。」

保護者「お子様は、楽しく学校にいらっている。」

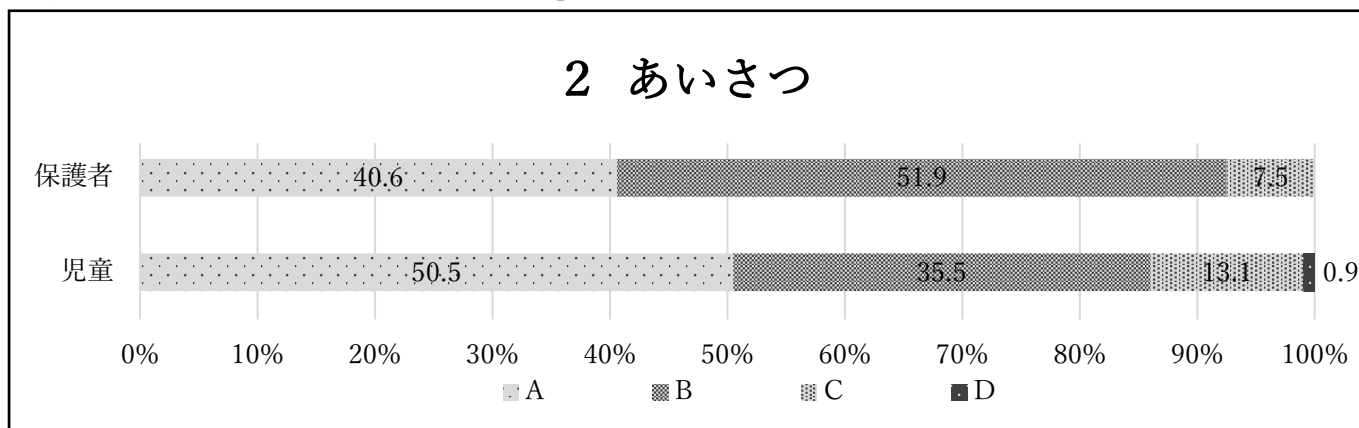


学校は楽しい場所であると感じている児童が多くいることがわかった。しかし、そう感じていない児童に対して注視し、学校が楽しいと感じる雰囲気づくりを大切にしていきたい。

②「あいさつ」

児童「自分から友達や先生、地域の人たちにあいさつができています」

保護者「お子様はあいさつをしている」

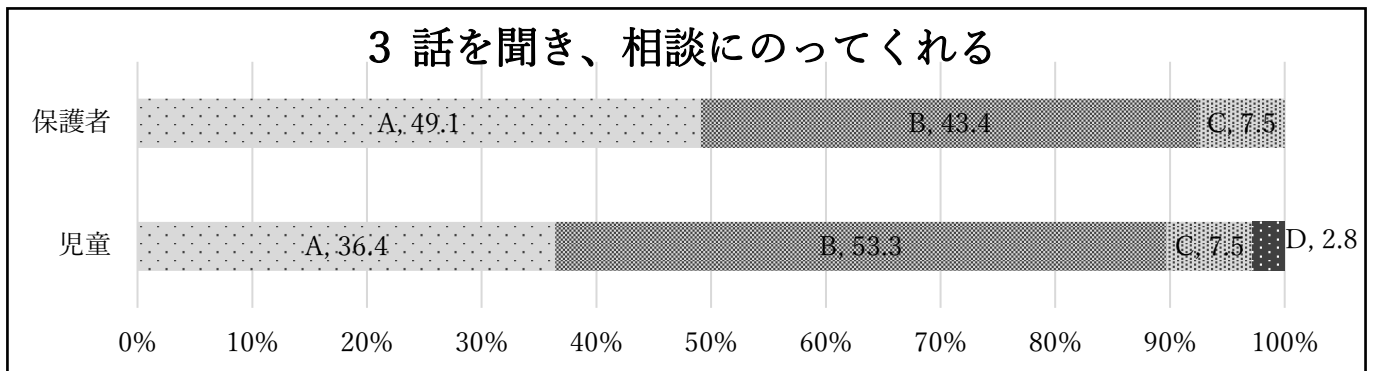


「あいさつ」は、児童と保護者では、「A」・「B」評価が高い。しかし、低学年では「C」「D」評価が付けられている。先生や友だち親にはあいさつができていても、地域の人にあいさつができていないという声も聞かれるので、地域の方々にもあいさつができるように、今後も全校朝会や全校終会などの機会であいさつの啓発に努めていきたい。

③「話を聞き、相談にのってくれる」

児童「何かあったときに先生にたずねたり、相談したりできますか。」

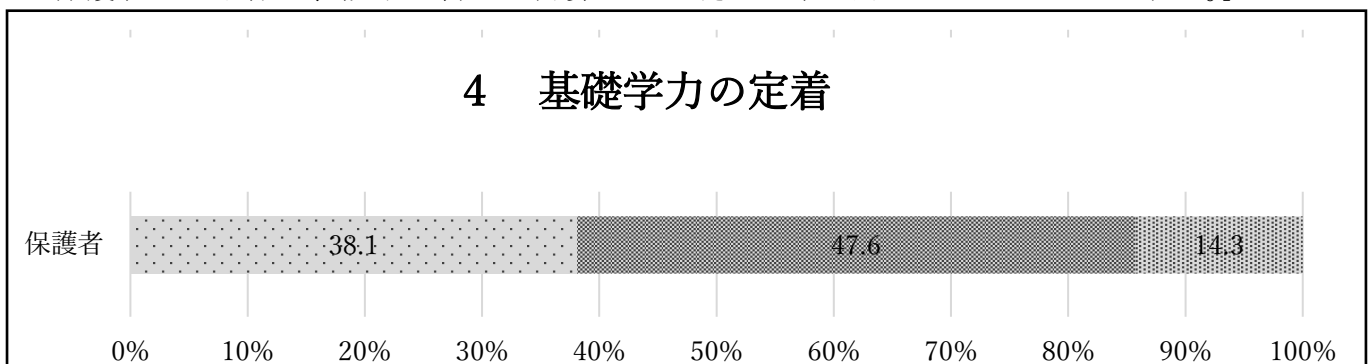
保護者「学校は保護者の話を聞き、相談に乗ってくれる」



「話を聞き、相談にのってくれる」は、児童、保護者ともに「A」「B」評価を合わせると90%ほどの高い割合を示した。今後も、児童・保護者との良好な関係を築きながらより一層信頼していただけるように教職員一人ひとりが心掛けていく。また、今年度から始めた「城東っ子相談」（個別面談）については、担任が児童一人ひとり向き合う時間として、今後も継続して取り組んでいく。

④「基礎学力の定着」

保護者「お子様は、読み・書き・計算など基礎・基本の力がついてきていますか。」

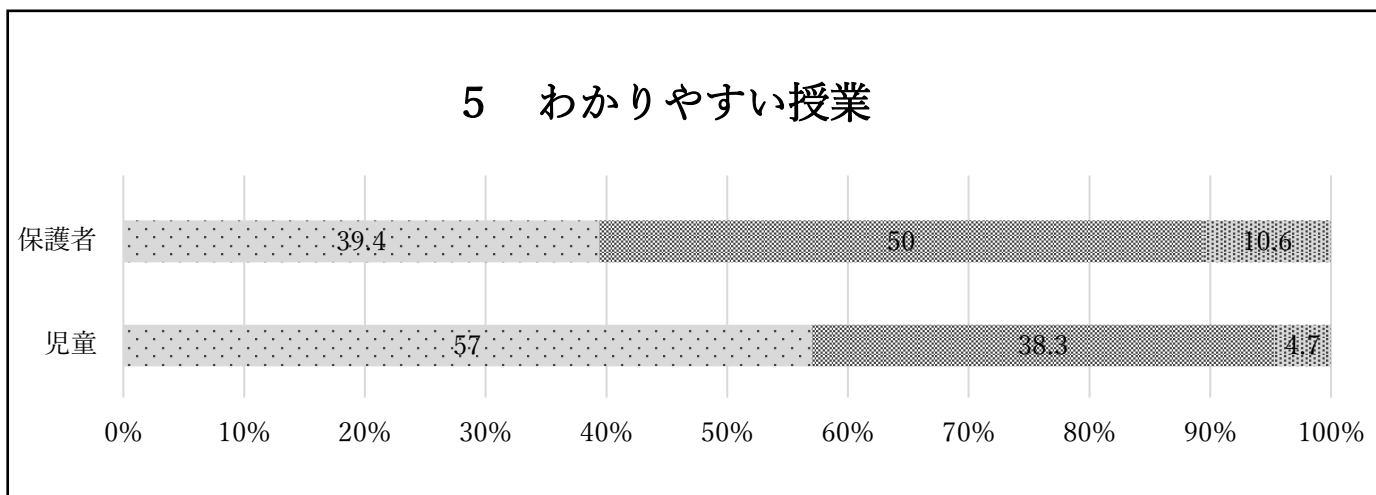


各児童の実態をしっかりと踏まえたうえで、必要な支援を講じていけるよう努めていく。また、朝の時間のスキル学習（計算プリント）を通して、計算力をつけてきている児童、家庭学習（算数、漢字、音読の宿題）を通して、定着が図れている児童も多い。今後も丁寧に取り組んでいく。

⑤ 「わかりやすい授業」

児童「授業はわかりやすいですか。」

保護者「学校は、わかりやすい授業に努めている。」

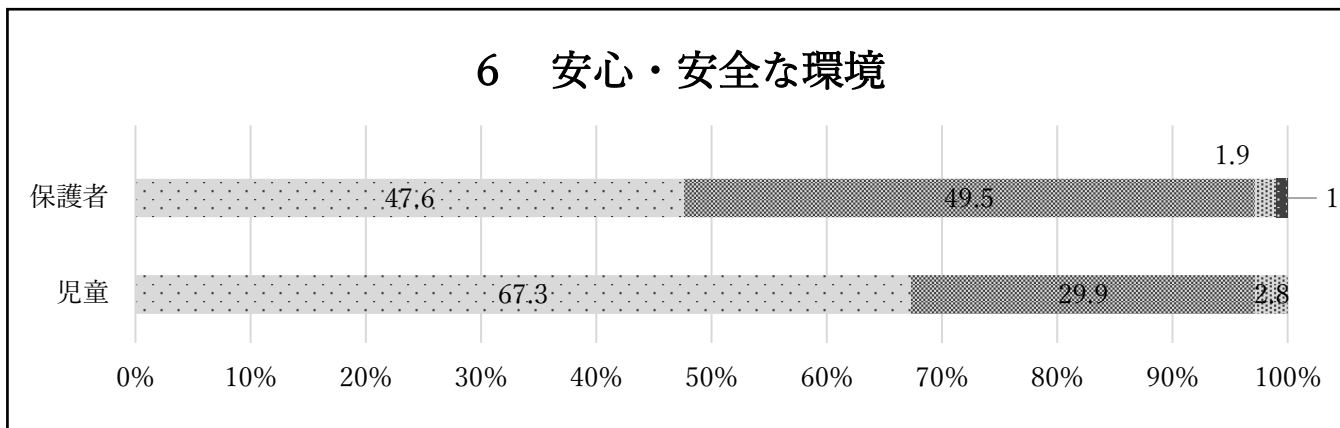


今後も、基礎学力の定着、学力向上につなげる、わかりやすい授業づくりに向けて、教材研究や指導法の改善に努めていく。また、新学習指導要領が施行され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりや、GIGA スクールによる一人一台のパソコンを活用した授業づくりなどの研修を実施して、わかりやすい授業づくりを目指して取り組んでいく。

⑥ 「安心・安全な学校」

児童「安全や健康に気をつけて学校生活が送れていますか。」

保護者「学校は、安全・安心な環境が整っている。」

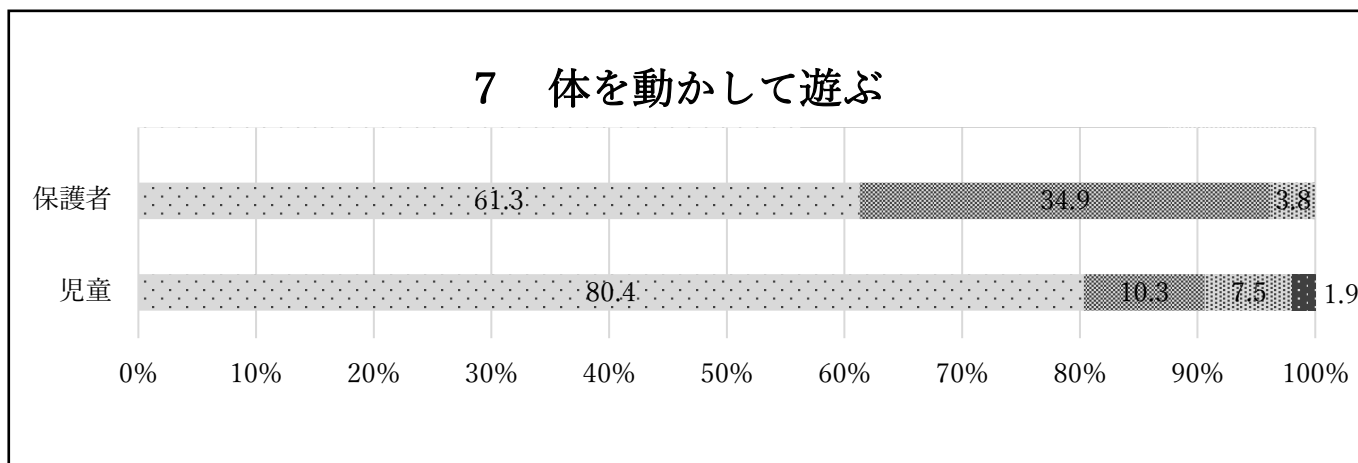


今後も安全指導の機会を増やしながらかきなけがや事故が起きないように未然防止に努め、今以上の児童の安全意識の向上を図っていく。

⑦「体を動かして遊ぶ」

児童「元気に体を動かして遊んでいますか。」

保護者「お子様は、体を動かし元気に遊んでいる。」

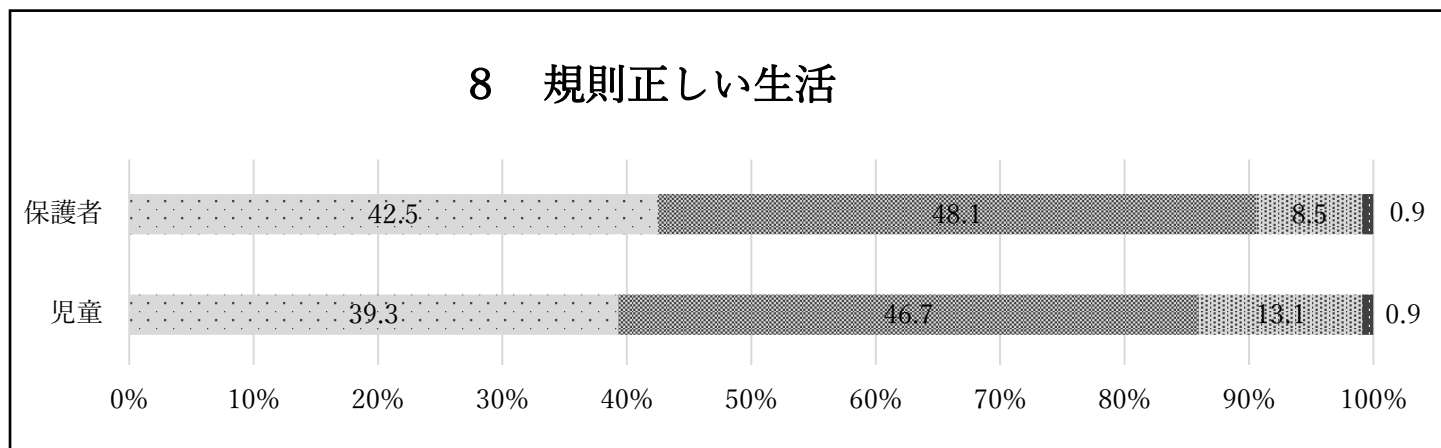


「体を動かして遊ぶ」は、3者全てで、「A」「B」評価を合わせた割合が非常に高く、城東っ子は元気に体を動かし遊んでいる。学校では、朝・業間・昼の各休み時間で、運動場で遊ぶ児童の姿が多く見られ、特にみんなで遊べるボール遊び（ドッジボール・サッカー）や、鬼ごっこをしている児童が多い。暖かい時期には、遊具を使って遊んだり、冬場は縄跳びをしたりもしている。雨天時には、体育館も開放している。本校では、業間休みに鉄棒チャレンジ（6月）マラソンチャレンジ（12月）縄跳びチャレンジ（2月）と3～4週のチャレンジ週間を設け、体力向上を目指した取り組みも実施している。少数ではあるが、体を動かすことに消極的な児童もいる。そのため、学級での皆遊びや担任と一緒に遊んだりなどして体を動かして遊ぶ機会の創出を工夫している。学校では体を動かして遊べるサンマ＝3つの間（時間・空間・仲間）が整っているが、家庭ではサンマの減少や習い事など時間の制約、さらにはゲームで遊ぶ楽しさが勝ることもあるため、学校の休み時間は児童にとってとても貴重な時間である。

⑧「規則正しい生活」

児童「早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活が送られている。」

保護者「お子様は、規則正しい生活が送れている。」

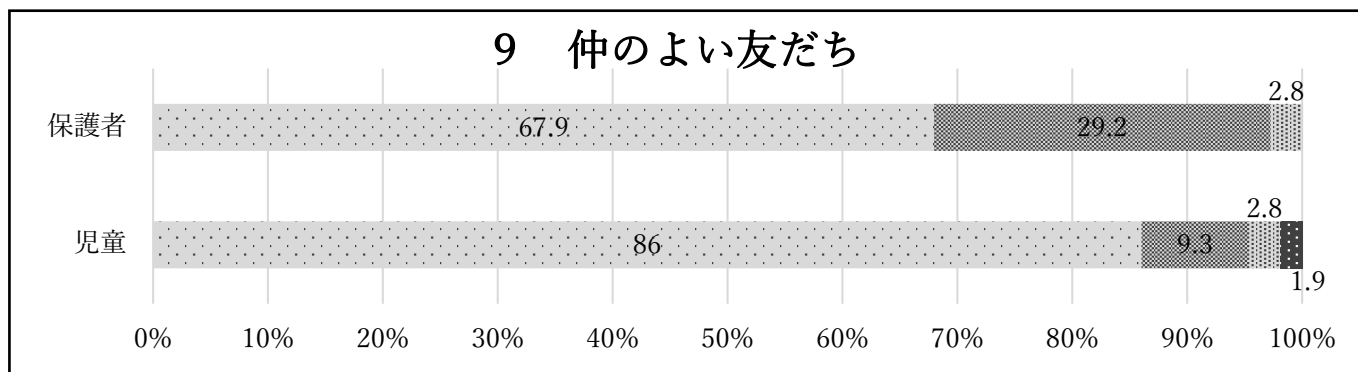


「規則正しい生活」は、児童、保護者ともに「A」～「D」の評価の割合が概ね一致している。児童、保護者ともに10～15%ほどが「C」「D」の消極的な評価であり、生活リズムが乱れてきている児童がいることが伺える。最近の様子では、寝る時刻が遅いため、起床しにくく朝食が食べられないまま登校している児童、また十分な睡眠がとれていない児童がいるように感じる。

⑨「仲のよい友だち」

児童「遊んだり話をしたりする、仲のよい友だちが学校にいますか。」

保護者「お子様は、学校に仲のよい友だちがいる。」

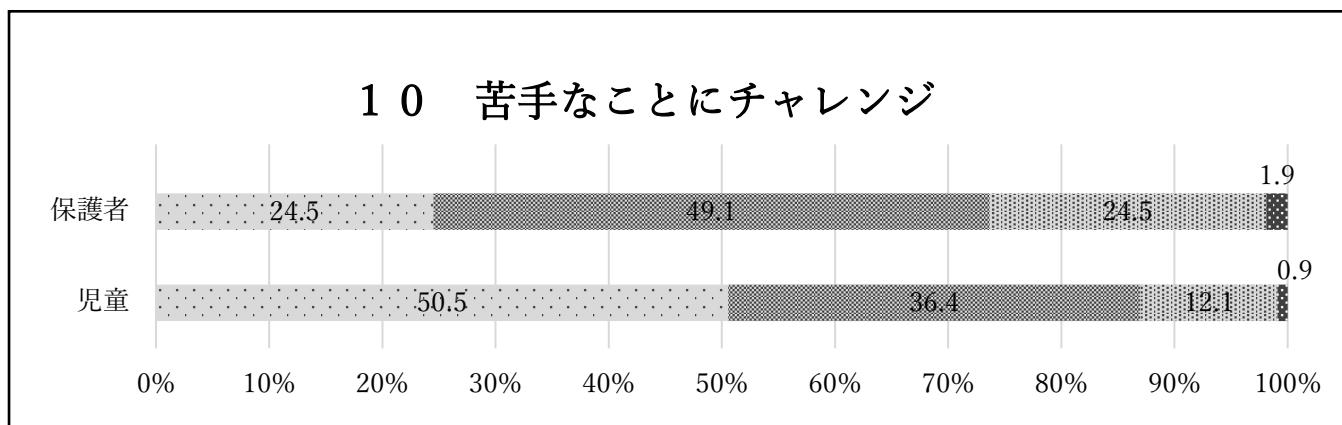


一日の長い時間、児童は学校で生活するため、楽しく学習や運動などをしていくには、仲のよい友だちは大切である。今後もよりよい仲間づくりに向けて取り組んでいく。

⑩「苦手なことにチャレンジ」

児童「苦手なことにもチャレンジしていますか。」

保護者「お子様は、苦手なことにチャレンジしようとしている。」



「苦手なことにチャレンジ」は、児童は 87%（「A」＋「B」）が積極的な回答を示した。しかし、保護者では、「C」「D」の消極的な割合が、児童の倍の割合を示している。学校では、友だちやみんなが一緒だからこそ自分もチャレンジしようとしたり、頑張ろうとしたりできる環境づくりを進めていく。